



体験から学ぶ 人権・命の大切さ

10月は外部機関と連携して、各学年で体験型学習が実施されました。体験することで相手の立場や気持ちを理解でき、新しい発見がたくさんありました。

1年生では福祉体験と高齢者擬似体験を実施しました。福祉体験では、車椅子やアイマスクをして活動することを体験。少しの段差があることで、一人では車椅子を操作できなくなったり、見えない状況で歩くことの恐怖や不安を体験したりしました。また、高齢者擬似体験(写真左)では、体に重りをつけ、膝や腰をまっすぐ伸ばせず、目も耳も不自由な状態で、買い物に行ったり、階段を上ったり

りする体験をしました。隣でサポートしてくれる人がいることの安心感や、相手の立場を理解することで優しく接することができることなど実感できたことでしょう。

2年生ではKIDS救命士講習を実施しました。「もし心肺停止状態の人が目の前にいたら何ができるか」を想定し、AEDの使い方と心肺蘇生法を一人ひとり全員が体験しました。相手はマネキンといえど、人の命がかかっているということで皆真剣そのもの。講習後、全員に「KIDS救命士認定証」が授与されましたが、いつこの経験が生きる時が来るかもしれません。その時、勇気を持って行動できるかどうか大切です。

3年生は思春期体験講座を受けました。助産師さんを講師に迎え、前半は命を授かるしくみについて講義を受け、後半は赤ちゃんの人形を抱っこしてその感触を実感したり、妊婦さんの身体を模した服を着て靴紐を結んだりしてその大変さを体験しました。3年生は総合的な学習の時間で「今、ここにいるということ」をテーマに、ここまで育ててもらった周りの人たちへの感謝を学んでいます。生まれた時の気持ちや幼い頃の思い出、未来への想いなど、用紙いっぱい書かれたお母さんからのメッセージを読んで涙する生徒もいました。



新チーム発進！ 新人大会

10月2・3日を中心に海草地方中学校新人総合体育大会が各会場で開催されました。新チームになって、初

めての大会。夏からの努力の成果を発揮すべくワクワク・ドキドキで決戦の日を迎えたことでしょう。結果を紹介します。信じられないドラマがあったのが野球部。決勝で海南・亀川合同チームと対戦し、1-3で劣勢の最終回2アウト2・3塁。バッター空振り三振で万事休すと思った瞬間、相手のキャッチャーがボールを見失う間に振り逃げで二人の走者も生還して同点に。そして、延長タイブレークで1点をもぎとりサヨナラで優勝を決めました。最後の最後まで諦めなかったこ



とがこの奇跡につながったのでしょうか。陸上部は堂山さんが200mで1位など、4人全員が入賞し県大会に出場。ソフトテニス部は男子団体が決勝で下津二中に破れはしたものの2位。個人戦では仲・尾田組、崎山・田中組が3位、藤田・前田組、山崎・尾前組が5位に入賞し県大会への出場を決めました。バレー部は1日目に第三中にフルセットで負けましたが、2日目、巽中には2-0で快勝。結果、その3校が同率で並んだことで、三中に1セット取った東海南が3位となりました。バスケット部は男女共勝つことはできませんでしたが、今後につながる「意味のある」敗戦でした。

さて、大会が終わったときの気持ちはどうだったでしょう。きっと、「もっと強くなりたい」「緊張して力が発揮できない」「課題が分かった」など、「もっともっと練習したい」という気持ちになったことでしょう。その気持ちを次の大会まで継続して努力を続けられるか。それが大切です。



14日、県教育委員会による学校指導訪問がありました。全クラスの公開授業の後、3年生英語の研究授業がありました。「あこが

英語で語り合おう 研究授業



れの人物について語り合おう」がテーマで、芸能人やスポーツ選手、アニメの主人公など、それぞれがあこがれの人物について英語で発表し、聴いている人は質問やコメントをして英語でやりとりをしました。発表者は身振り手振りをつけ、表情豊かに発表し、聴く側も積極的に手を挙げて質問します。抵抗なく、

むしろ楽しそうに英語を使う姿に、参観された教育委員会の方々は、「ここまで自然に英語で話し合える授業は、なかなか見られないですよ」と感心されていました。

